

経済レポート

平成25年6月4日 2451号
(昭和29年4月22日第三種郵便物認可)

2013年
 (火曜日発行) **6/4**



意思あるところに
 道はあり
 佐々木茂樹

カイソーが納整センター開設し新事業展開……2
 店舗展開に微かな伸び 因島モールとハローズ三木店…4
 救急レッカーが事業用車両に特化した整備工場…6
 セキスイハイム中四国 西条に「減災」街づくり…7
 全面建替えのオーディ広島 展示台数は国内最大…8
 市況軟化するも商況低迷が続くGS業界…… 14

吟醸原酒 初のいきり
 大人だけの初夏の楽しみ
 有楽しみ

吟醸原酒 初のいきり
 大人だけの初夏の楽しみ
 有楽しみ

地域とともに 皆さまとともに
 大野 量

大野 量
 http://www.hinohira.co.jp

経済レポート

広島エアポートホテル黒字転換、再建計画初年度での快挙

【広島エアポートホテル(広島市本郷町善入寺六四一―五、福永嘉文社長)は、今三月期の決算で六期ぶりの黒字を達成する快挙を成し遂げた。同社は、広島空港の周辺付帯施設として二十年前、県の第三セクターとしてオープンした客室数七十を誇る大型ホテル。だが立地柄、パイロットや客室業務員など航空関係者以外の利用が伸びず、当初から低空飛行が続いていた。最初に経営に参画したセゾングループが約三年で撤退した後は、リーガロイヤルホテル広島が代わって運営にあたり、一昨年は再建計画がスタートした。その一環として、同社が、空ビル単体ではホテルを運営するノウハウも人材も無い。そこで、ホテルの運営改善を専門に手がけるコンサルティ

ング会社・ホスピタリティマネジメント(株) (東京) から出向した佐々木茂樹氏を取締役総支配人に迎え、経営再建に着手。平成二十四年度からの五カ年計画を作成し、約五千万円の累積損失の解消を目指すことに。とほや、それまで五期連続赤字が続いていただけに急激な業績改善は懐疑と見られ、計画初年度は一千万円程度の損失、二年目で損益ゼロの目標を掲げていた。だが、諸々の経営努力が奏功し、一年目からいきなり約四百万円の当期利益を計上。嬉しい誤算と相成った。

インターネットを活用した告知活動を通じ、宿泊以外にもウェディング・ブライダル関連や会議・パーティー等の需要を掘り起こす営業努力に加え、よりお得感のある柔軟な料金体系を設定。さらには台湾セールスの強化によるインバウンド利用を獲得するなどし、年間客室稼働率をそれまでの六五%から七二%に引き上げ、増収を果たしたことに由来する。



「外部から来て色々やり方を学ばせてくれた。最初は抵抗もあったが、それでもスタッフが大変よく頑張ってくれたおかげ」と功を讃える佐々木支配人だが、その運営手帳は今後業界で評価を注目を集めそうだ。

「当社は、都市型ホテルには無い自然豊かな美しいロケーションに加え、隣接する広大な多目的庭園リゾート施設(フォレストヒルズガーデン)ではコア施設も出来、また併せてゴルフコース(フォレストヒルズ・ゴルフ&リゾート)も備えるなど、複合的な楽しみ方を提供出来るのが特長。こうした経営資源を総合的に活かし、今後は

設備や施設類の修繕など様々な投資負担が今後控えており、本業外の赤字を吸収する余力が次第に無くなりつつあることから、その黒字化は空ビルにとって必須の経営課題となっていた。エアポートレゾから空ビルに所有が移ったホテルもガーデンもゴルフ場も、そもそもは空港開港にともなう周辺開発の一環として整備されたもの。いわば、政治的遺産(?)にして景況悪化がなりし時代の果の負の遺産とも言える。その後これらの施設は様々な問題が噴出し(ゴルフ場会員への預託金償還裁判など)によるイメージダウンなど、結局はエアポートレゾも消滅した。

そうした一切を引受けて黙々と再建に努める空ビルを指して「匠的」「後始末」などと揶揄する声もあるが「と水を向けると「そうした意識は全くない」と専任社長はキッパリ否定。「むしろそれらの全てを一体的に活用することで、空港周辺の利便性・機能性を高め販路の創出につなげ、もって健全経営の礎にしたい」と前向きな姿勢を強調している。